

『喜びに変わる…！』ヨハネ16:16-22

16:16 しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。

16:17 そこで、弟子たちのうちのある者は互に言い合った、「『しばらくすれば、わたしを見なくなる。またしばらくすれば、わたしに会えるであろう』と言われ、『わたしの父のところに行く』と言われたのは、いったい、どういうことなのであろう」。

16:18 彼らはまた言った、「『しばらくすれば』と言われるのは、どういうことか。わたしたちには、その言葉の意味がわからない」。

16:19 イエスは、彼らが尋ねたがっていることに気がついて、彼らに言われた、「しばらくすればわたしを見なくなる、またしばらくすればわたしに会えるであろうと、わたしが言ったことで、互に論じ合っているのか。

16:20 よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜びであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう。

16:21 女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。

16:22 このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。

●序論

ヨハネ13章から始まるイエスさまの告別メッセージ。

ここで、13章1節の言葉を振り返り、改めて心に留めておきたいのです。

13:1 過越の祭の前に、イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

その言葉もふるまいもすべて、残していく弟子たちを愛して、最後まで愛し通された、その証の言葉です。そうして今日イエスさまの言葉に耳を傾けます。

16:16 しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。

弟子たちに語られた不思議な言葉です。ここで弟子たちは混乱しました。「しばらくすれば…見えなくなる」「またしばらくすれば…見るようになる」——それが何を意味しているのか、彼らには理解できなかったのです。

けれども、この言葉こそ、” イエスさまの十字架、復活、聖霊の降臨、そして再臨へと続く、神のご計画の全体” を包み込む、非常に深い「神の知恵、神の力」が物語られているのです。そして、その中心には「悲しみが喜びに変わる」という神の恵みのドラマがあります。そしてわたしたちはこのすべてを、キリストの福音の物語として聞いているのです。

I. 「見えなくなる」——十字架の悲しみ、別離・喪失の悲しみ

まもなくイエスさまは捕らえられ、十字架にかけられます。

それは、ただただ耐え難い悲しみです。愛する方を失う痛み、信じていたものが崩れ落ちるような絶望、それは私たちにも心当たりのある感情かもしれません。

イエスさまは、それを「しばらくの間」と語りました。それは十字架の時。主が「見えなくなる」時です。

もし、まことの神さまがいなければ、もしイエスさまが本物の救い主でなければ…、その見えなくなる経験は、はてしのない暗闇しかない時間となるでしょう。

しかしイエスさまは、不安を抱え、十字架を見て悲しみに打ちひしがれであろう弟子たちに、「しばらくすれば」とこの個所で繰り返し語るのです。

「神さまが見えなくなるような経験」をわたしたちもすることがあるでしょう。

悲しみと喪失感があまりにも大きくて、そういう経験をすることがあるでしょう。祈っても応えがない、痛みと涙が続く、希望が消えたように感じる…。

しかし、イエスさまは、わたしは” いる” と言われます。そうして「しばらくすると」と語られました。永遠ではない、その悲しみは「しばらく」なのです。

II. 「また見るようになる」——復活の喜び

16:16 しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。

あの十字架と葬りから三日目の朝、主は復活され、ユダヤ人たちを恐れて隠れていた弟子たちの前にご自身を現され、声をかけられました。

…彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」（ヨハネ 20:19）

彼らの心はパッと照らされました。

:20 …弟子たちは、主を見て喜んだ。

彼らの目に、主が「再び見える」ようになった瞬間です。喜びがあふれ、悲しみは一瞬にして変わりました。

今日お読みしたところでイエスさまは言われました。

:21 女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。

苦しみは、それだけで終わるためのものではなく、「しばらくすれば」喜びへと生ま

れ変わるのです。

ただ気分が変わるというわけではありません。別のところに良いことが起こってそれで気持ちがまざれるというものでもありません。キリストにある出来事は、「悲しみが喜びに変わる」のです。

これはわたしたちへの事実となると聖書はこう語ります。

だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。（Ⅱコリント5:17）

Ⅲ. 聖霊による確信——見えない方との交わりへ

神さまのご計画はさらに進みます。

復活の主は、弟子たちと40日間共に過ごした後、天に昇られました。再び「見えなくなる」時がやってきたのです。

けれども今度は違いました。弟子たちは主の約束に信頼し、祈り続けました。

そしてペンテコステの日。聖霊が降った時、彼らは確信を得ました。

もはや目に見えなくても、「主は共におられる」と経験したのです。

聖霊によって、イエスさまとの「再会」は目に見えるものから、交わりの経験へと変えられたのです。

この聖霊の働きによって、私たちも今日、キリストと出会うことができます。たとえ目に見えなくても、心で「見て」、確信し、喜ぶことができるのです。

この聖霊の経験をもって、わたしたちは互いに励まし合うことができます。

どんな境遇や悩みの中にも、復活のイエス様のことばをもって励まし合うのです。

:20 …あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう。

Ⅳ. 再臨の希望——永遠に変わらない喜びへ

キリストと私たちを巡る計画はさらに前に進みます。イエスさまは言われました。

16:22 ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。

この約束は、復活の時にも、ペンテコステにも部分的に実現しましたが、最も完全な意味で成就するのは、再臨の時です。

私たちはその日、再び主を「見る」ことになります。それは永遠の喜び、決して失われない喜びです。

地上で人が作り上げた喜びは、もろさを抱えています。

しかし、イエスさまがくださっている喜びは、神の知恵、神の力によって今も進んでいます。

今日お聴きした「しばらくすれば」という言葉が最も確かな慰めの言葉でしょう。
この言葉の言語は「ミクロン」という言葉。最も小さい単位の時間を指しています。
十字架の悲しみののちに、イエスさまの復活が、聖霊のそそぎによる教会の誕生が、あったように、いましばらくすれば、必ず主は来られます。

この約束と希望があるからこそ、クリスチャンは、この混乱の有る中でも、礼拝をささげます。礼拝を通して神を喜び神さまの喜びを経験する者となっているのです。それこそ、奪い去られることのない、天の喜びです。

●おわりに

イエスさまは、私たちの悲しみをそのままにせず、「喜びに変える」と約束してくださっています。整理してみましょう。

- ・十字架の悲しみは、復活の光によってぬぐい去られました。
- ・見えなくなる時も、聖霊によって、主は共にいてくださいます。
- ・そして、再び主が来られる時、私たちは完全な喜びをもって主と会うのです。

今、人生に悲しみがある方も、どうかこのイースターにもう一度、復活の主を見上げてください。「しばらくすると…」その悲しみは、キリストにあって必ず喜びに変えられます。

16:22 このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。

この約束を握りしめて、今日も歩んでまいりましょう。